

## 悪天候に翻弄される予選、決勝に

### 2021 全日本スーパーフォーミュラ選手権第3戦レポート

開催日程	2021年5月15日(土)/16日(日)	開催場所	オートポリス(4.674km)
大会名称	2021年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第3戦(42周 / 参加台数:19台)		
天候/気温	5月15日(土): 雨 / 19°C	16日(日): 雨 / 22°C	
観客動員数	5月15日(土): 1,800人	16日(日): 2,830人	計 4,630人 (主催者発表)



全日本スーパーフォーミュラ選手権第3戦がオートポリスで開催。昨年は11月の開催で秋晴れに恵まれたが、今大会は週末を通して荒天に見舞われた。濃霧と強い雨、風により、レーススケジュールは大幅な変更を余儀なくされる。コース上にはいくつもの川や水たまりができ、阿蘇の中腹に位置する関係で雲のような濃霧が立ち込めることも。ドライバーはより一層の集中力を必要とされる、非常にタフなコンディションとなった。

ここまでで2戦が終了しているスーパーフォーミュラだが、KCMGは重要な開幕戦でポイント獲得に成功。第2戦ではアクシデントに見舞われノーポイントに終わってしまった。いつも以上にドライバーの力とチーム力が試される状況になったこの1戦で、再びポイント獲得、そして上位フィニッシュを目指した。

**【予選】**

天気:雨 / 気温:19°C / 路面コンディション:ウェット

#7 小高一斗	15 位 / 1' 41.521
#18 国本雄資	14 位 / 1' 41.351

設営日の 14 日(金)には日差しも出ていたオートポリスだが、予報通り予選日の 15 日(土)からは天候が悪化。朝方に降り注いだ雨がコースを濡らし、午前 9 時 30 分からのフリー走行はウェットコンディションのもとで行われた。セッション序盤は雨がやんでいたものの、1 度目の赤旗中断から再開して間もなく、再び大粒の雨が落ち始め、さらにコースコンディションが悪化。小高も国本もこの時点ではまだ走りをはじめで 1 分 42 秒台のタイムしか計測できていなかったが、さすがにコースインできる状況ではなく、しばらくピットに待機して天候の回復を待った。残り時間が 30 分を切る頃に、ようやく雨脚も少し弱まりコースインできる状況に。まだコース上の水量は多くタイム更新は難しい状況だったことから、セッション前半のタイムでリザルトが決定したため、国本が 18 位、小高が 19 位という結果に甘んじてしまった。ただし、ヘビーウェットコンディションの中でも少しでも予選に向けたデータを蓄積するため、2 台は果敢に周回を重ねていった。

悪天候は予選方式にも影響を与え、通常通りノックアウト方式を採用するはずだったが 40 分間の計時予選へと変更。午後 3 時 10 分開始とアナウンスされたが、雨脚が定まらず結局午後 3 時 35 分ようやくコースオープンとなった。ピットロード出口信号が青に変わると同時に、各車が一斉にコースイン。KCMG はピットロード出口に対して後方のピット位置だったため、やや後ろから国本、小高の順でコースへと入っていった。国本がアウトラップを終え、タイムアタックに向けてタイヤのウォームアップに入ろうとしたとき、1 台の車両がコースアウトしたことにより赤旗中断。国本は 1 分 46 秒 861 という暫定タイムを記録できていたものの、小高はコースに出ていったまさにその周にピットインを余儀なくされた。

車両回収が終わったところでセッション再開。このタイミングで降雨はやや落ち着いており、アタックのチャンスとばかりに全車がコースへと向かっていった。KCMG の 2 台も、国本がアウトラップ直後の周回で 1 分 41 秒 351 を記録。小高がその翌周、セクター 1、2 と国本よりも速いタイムを記録したが、ここで再び赤旗中断。小高のタイムは 1 分 41 秒 521 にとどまり、再びピットへと戻ることになった。赤旗中断は他車のコースアウトによるもので、さらにこの後も複数台がコースアウトし、計 4 回も赤旗提示によりセッションが中断してしまう。残り時間が 20 分を切る頃になると、いったんはやんでいた雨が再び降り出し、タイム更新が望めない状況に。アタックのタイミングを赤旗中断によって奪われてしまった KCMG の 2 台は、国本が 14 位、小高が 15 位となった。

**【決勝】**

天気:雨 / 気温:22°C / 路面コンディション:ウェット

#7 小高一斗: 16位 / #18 国本雄資: リタイア

一夜明けた決勝日も、依然として天候は悪く、午前 10 時 20 分から予定されていたフリー走行は濃霧による視界不良のためキャンセルが決定。決勝レース直前に 8 分間予定されていたウォームアップ走行を 20 分間に延長することがアナウンスされた。しかしそのウォームアップ走行も、セッション中に 1 台がコースアウトし赤旗終了となってしまった。

午後 2 時 55 分にフォーメーションラップがスタート。スタート進行中はやんでいた雨がフォーメーションラップ中に降り出し、そのスタートに注目された。シグナルのブラックアウトからいよいよレーススタート。まずまずのスタートを切った 2 台は 1 コーナーへと向かっていくが、前方で 2 台が接触するアクシデントが発生。その 2 台がコース上でストップしてしまい、後続は大混乱となってしまった。この混乱を避けるため 1 コーナーのアウト側にかじを切った国本は、そのままアウト側のグラベルにつかまってしまい、車両がストップしてしまう。このアクシデントにより、レースはオープニングラップからセーフティカー(SC)が導入。国本はここでリタイアとなってしまった。

このアクシデントをコースのイン側から避けることに成功していた小高は、15 番グリッドから 9 番手へと大幅ポジションアップ。ポイント獲得圏内で 5 周目のリスタートを迎えた。リスタートではポジションをキープしたまま、前方でオーバーシュートからコースへと戻りスピードの上がない#19 関口雄飛選手を追い詰めていくかに思われた。しかし、再開直後こそ#19 関口選手に迫る勢いを見せていたもののすぐに後続の#64 大湯都史樹選手に追いつかれてしまう。小高は懸命にブロックしながら周回。6 周目に入るところでは、再びオーバーシュートした#19 関口選手と、背後の#64 大湯選手、さらにここまでシーズン 2 勝を挙げている#16 野尻智紀選手までの 4 台が横並びで 1 コーナーへ。小高は一番イン側をキープしながら 1 コーナーへと飛び込んでいくが、アウト側にポジションを獲った 3 台にかわされ、順位を下げてしまった。それでもなんとか食らいついていき、50R コーナーで#19 関口選手にイン側から並びかけ、勝負を仕掛ける。オーバーテイクシステムも使いながらなんとか前に出ようとしたが、続く日立 Astemo コーナーではイン側をキープした#19 関口選手に軍配が上がる。小高は僅かに挙動を乱したところでさらに 1 台にかわされ、順位を下げるようになってしまった。ここから挽回を目指す小高だったが、11 周目に入るところで、突如大粒の雨がたたきつけるように降り出して来る。すぐさまレースは 2 度目の SC 導入となり、各車がスピードを緩めながら隊列を整えていったが、その直後に最終コーナーで小高がスピン。チームはこの周にタイヤ交換をすべくピット前で準備を整えていたが、残念ながらピットへたどり着くことができず、ここでレースを終えることとなった。決勝レース自体は 12 周を完了前に赤旗中断。そのまま終了を迎え、小高には 16 位という順位が付いている。

ウェットコンディションに翻弄され、本来の力を発揮できずに終わってしまった今大会。第 4 戦までのインターバルで悪い流れを断ち切り、気持ちを切り替えて次戦 SUGO 大会へ挑む。

## 【ドライバーコメント】

### #7 小高一斗

走り出しのフリー走行から雨量の多いヘビーウェットの走行が続きましたが、雨が降った時の課題が決勝まで解決できず、厳しいレースウィークになりました。予選では赤旗が多く、セクター2まではベストタイムで来ていたところを、最終セクターのところまで赤旗中断となり、ベストタイムを更新できなかったのが非常に残念です。決勝ではスタートが上手く決まり、1コーナーでの位置取りも良く9位までポジションを上げることができましたが、ペースが上がらずポジションを下げてしまい、最終的にはスピンで終わってしまいました。決勝では終始グリップがなく、厳しい状態でした。開幕戦から悔しい結果が続いているので、次戦に向けて準備をして良い結果を残せるように頑張ります。

### #18 国本雄資

今週末は常に雨が絡み、天候も不安定な中で難しいレースウィークとなりました。走り始めからあまりパフォーマンスが高くなく、非常に苦労した週末でした。予選では赤旗が多く自分たちのパフォーマンスをフルに発揮することができずに悔しい予選となりました。決勝レースはスタート直後の1コーナーで接触を避けるために1コーナーで避けていったところでグラベルに飛び出してしまい、そこで車をストップさせてしまいました。

非常に厳しい週末でしたが、その中でチームといろいろとミーティングをしながら少しでもパフォーマンスを上げられるようにとみんな頑張っていました。それだけに、レースを走りきることができず、最後のパフォーマンスを確認できずとても悔しいです。次のSUGOまでには少し時間があるので、今の自分たちの状況をしっかりと見極め、少しでもパフォーマンスを上げられるように、そしてSUGOでは良いレースが出来るように準備して行きたいと思います。非常に残念な週末でしたが気持ちを切り替えて次戦では良いレースを見てもらえるように頑張りたいです。応援ありがとうございました。

## 【監督コメント】

### 松田次生監督

今年初のウェット路面で、フリープラクティスからマシンのセットアップに苦しみました。予選までには少し改善したのですが、セッション中に赤旗が4回出てしまいタイムを出すことができず、後方グリッドからのスタートとなってしまいました。決勝でも天候が不安定な中レースが行われ、スタートでは不運な状況で前のマシンを避けようとコースアウトした国本はグラベルストップ。小高も頑張って走行していましたが、スピンしてしまいリタイヤと、とにかく不完全燃焼のレースでした。

現状をしっかり受け止めて、結果を残すためにはどうすればいいのか、チームとしてどうしていけばいいのかを、ドライバー、エンジニア、チームの皆で考え、次戦に臨みます。とにかくみんなで気持ちが晴れるようなレースがしたい。そしてチームスタッフ皆の笑顔が見たい。その為にも頑張ります。

悪天候の中、2日間サーキットへ応援に来て頂いたファンの皆さんありがとうございました。

